

下位群落にまとめられた。林内は、さらに2つの下位単位に分けられる。アカシデ下位群落は、立地や種組成からみて、マルバマンサク・ブナ群集の代償植生であるものと考えられる。宮脇他(1977)は、この下位群落と同じ植分にはいるものと思われる。

2). クマイザサ下位群落

クマイザサ、トリアシショウマ、キタコブシ、トチノキなど比較的湿性な種で区分される。岩手県の早池峰山・田代など西よりのやや降水量の多くなる

地域や、下北半島の地形的に湿潤になっている地域に発達するコナラ林である。林内に、自然の復元度により更に、2つの下位単位に分かれる。自然の復元度が進むにつれてヒメアオキ、ハイイヌツゲ、ハイシキミなどが出現しており、立地、種組成からみてヒメアオキ・ブナ群集の代償植生と考えられる。宮脇・佐々木(1980)は、この下位群落と同じ植分であるものと考えられる。(以下次号へ)

〔植物ニュース〕58. コシノカンアオイ *Heterotropa megacalyx* F. Maekawa

戸隠山西岳山麓にあるときき、確認のため伊藤静夫氏に採集を依頼しておいたところ、鬼無里村品沢高原で1981年8月下旬に採集、持参して下さった。一般にコシノカンアオイはこの地域には分布しないと考えられていたが、この発見は本種の分布成立史にとって重要な資料となろう。(藤沢正平)

59. ナンテンハギ *Vicia unijuga* A. Br. の白花色

ナンテンハギは山野に普通に見られ通常紅紫色の花をつける。1981年8月22日、軽井沢町馬取にて純白色の花をつけた本種を見いだした。白花色については未だ報告が無いようなので、シロバナナンテンハギと呼びたい。一株だけであったので、地下部は同町立植物園の佐藤邦雄氏にお願いして同園にて培養していただいている。(土屋 守)

60. ブタナ *Hypochoeris radiata* L.

1981年8月中旬、横手山南の志賀一草津ルートの西側で5株発見した。欧州原産のキク科タンポポ亜科の植物である。(藤沢正平)

61. ノゲイヌムギ *Bromus sitchensis* Trin.

1981年6月24日、塩尻市片丘学校前約3㎡に多生しているのを見た。6月30日、松本市上今井で路辺雑草に約2㎡にわたって混生しているのをみた。イヌムギに似ているが、穂は細く葉は青味をおびている。(浅川富雄)

62. アレチノチャヒキ *Bromus sterilis* L.

1981年5月10日、長野市犀口下、鉄橋付近で発見した。少し日かげの路辺に叢生、ヒゲナガスズメノチャヒキに似ているが、穂が少し貧弱である。(浅川富雄)

63. ツルマンネングサ *Sedum sarmentosum* Bunge

松本市芳野町などで1981年9月16日発見。オノマンネングサに似ているが、地に伏して叢生し、葉はさじ形で巾が広い。(浅川富雄)

〔新刊紹介〕 清水建美 「原色新日本高山植物図鑑(1)」 A5判 331頁、保育社発行(1982年)、4,500円。

本会会長である清水先生の著になる本書は、武田久吉先生の手になる旧著とは全く趣をかえた新著である。第1巻は双子葉植物のうちキク科からバラ科までを含み全2巻となっている。また図版はすべて明細なカラー写真版となっている。自然に親しむ人々が增えるにつれ、高山植物図鑑もつきつぎと発行されている。しかしこれらはアマチュア向きのものが多く、内容的に不十分であったり不明確な記述が多い。我々も高山帯の植物をよく調査するがその場合、近縁種や類似種の多い高山植物の同定に困惑することが多い。従前の図鑑類ではその点が非常に不満足であったので、より充実した学術的価値の高いものを切望していたのであるが、本書はその期待にたがわぬ好著であった。その理由の一つは、高山のある地元にすむ清水先生という最適任者が著者となられたことであろう。本書の特色をいくつかあげると、現代の写真技術を駆使した写真図版が、極めて鮮明、明瞭であること、また種の特徴をよくとらえた実写であることは他書に類をみない。また学術的に生命である学名、解説が正確無比でさらに検索表が充実していること、また本文の他に、高山植物に関する定義や研究史、大変興味ある地下部の詳細な図譜とその解説(20種)、走査電顕による微細構造、染色体数一覧表、英文検索表、そのほか随所に新しい工夫をこらしている。このように本書は植物研究家にとって最も信頼すべき図鑑であり、また植物に興味ある人にとっても楽しい図鑑であり、わが国を代表する高山植物図鑑のみならず高山植物学の決定版といえよう。(K. T. 生)